

大学における性教育を考える（第4報） —「恋愛と性の講座」の8年間の総括—

松山まり子¹⁾, 日山 亨¹⁾, 石原 令子¹⁾
杉原美由紀¹⁾, 國廣加奈美¹⁾, 山手 紫緒¹⁾
河内 桂子¹⁾, 内野 悌司¹⁾, 磯部 典子¹⁾
矢式 寿子¹⁾, 二本松美里¹⁾, 吉原 正治¹⁾

Sex education in university (4th report)
— Summary of “Love and Sexuality Course” —

Mariko MATSUYAMA¹⁾, Toru HIYAMA¹⁾, Reiko ISHIHARA¹⁾
Miyuki SUGIHARA¹⁾, Kanami KUNIHIRO¹⁾, Shio YAMATE¹⁾
Keiko KOUCHI¹⁾, Teiji UCHINO¹⁾, Noriko ISOBE¹⁾
Hisako YASHIKI¹⁾, Misato NIHONMATSU¹⁾, Masaharu YOSHIHARA¹⁾

Key Words: sex education, university student, Love and Sexuality Course

I. はじめに

広島大学保健管理センター（以下、当センター）では、学生により豊かで充実した学生生活と将来の社会生活のために健康教育を行うが、その中でも性をめぐる問題の解決能力向上のためにセクシュアリティ教育の実施が必要と考え、2003年度から学内限定の「広大学生のための性教育講座」を始めた。2005年度からは、公開講座として「恋愛と性の講座」と改名した^{1)~3)}。2007年度から2010年度までは、広島大学公開講座の一つとして実施してきた。今回これまで8年間の「恋愛と性の講座」

を通して、大学における性教育を多角的に検討したので報告する。

II. 講座の概略

1. 講座の日程と会場

日程ならびに会場は、表1の通りである。基本的に広島大学（以下、広大）東広島キャンパス内の教室・会議室を用いた。2003・4年度は、保健管理センター内の健康教育室で開催した。2004年度のみ広島市霞キャンパスでも実施した。2005年度は学部1年生が講義後に気軽に参加できる総合科学部の講義室としたが、同じ講義室を固定して

1) 広島大学保健管理センター

1) Health Service Center, Hiroshima University

表1. 講座の日程・会場・テーマ・講師一覧

年度	場 所	月 日	テ ー マ	講 師
2003	東広島 北保健管理 センター 健康教育室	(第1回) 6月7日(土)	日本の現状とセミナーの目的 セクシュアリティについて	保健管理センター看護師松山まり子 教育学研究科教授兒玉憲一
		(第2回) 7月12日	HIV 感染症について HIV 感染症予防の実際 ーコンドームの使い方ー	国立広島病院小児科加藤恭博 広島県東広島地域保健所保健師 原田裕子
		(第3回) 8月2日(土)	妊娠・STI について 基礎体温測定について	西条ときわクリニック 副院長 山本雅子 保健管理センター看護師松山まり子
		(第4回) 9月6日(土)	ピア・カウンセリングについて ロールプレイ	保健管理センター助教授内野倂司 ピアサポートルーム三浦秀寿
		(第5回) 10月4日(土)	思春期カウンセリングの体験	川崎医療福祉大学助教授忠津佐和代 医療福祉部保健看護学科学学生
		東広島 総合科学部 講義室	公開講演会 11月3日(月)	エイズ・性感染症は生活習慣病(!!?) ーコンドーム使用の究極の性感染症予防ー
	2004	東広島 学士会館	6月1日(水)	【青年期ピアカウンセリング】の体験
6月4日(土)				
広島 保健学研究科 講義室		(第1回) 6月19日(土)	講座の目的と緊急避妊の最新情報 妊娠・性感染症について	保健管理センター看護師松山まり子 瀬戸産婦人科医院院長瀬戸真理子
		(第2回) 7月31日(土)	エイズ最新情報 HIV 感染症予防の実際 ーコンドームの使い方ー	広島大学病院エイズ医療対策室室長高田昇 広島市南保健センター保健師山根里美
		(第3回) 8月21日	セクシュアリティについて	教育学研究科教授兒玉憲一
東広島 北保健管理 センター 健康教育室		(第4回) 9月25日(土)	ピアカウンセリングについて	保健管理センター准教授鈴木康之
		(第5回) 10月23日(土)	【青年期ピアカウンセリング】の体験	川崎医療福祉大学医療福祉部保健 看護学科学学生達
東広島 健康教育室	(第6回) 11月20日(土)	【青年期ピアカウンセリング】の体験	川崎医療福祉大学医療福祉部保健 看護学科学学生達	
2005	東広島 総合科学部 講義室	(第1回) 10月21日(金) 10月22日(土)	「もし妊娠したら産む?産まない?」 ー助産師から大学生へのメッセージー	広島大学大学院生物圏科学研究科院生 長沼貴美
		(第2回) 10月28日(金) 10月29日(土)	「仲間同士で支えあう意味」 ー大学生のリアル恋愛ライフー	立命館大学大学院社会学研究科院生 清水誓子
		(第3回) 11月11日(金) 11月12日(金)	「それって愛情?」 ー私たちとDV(ドメスティック・バイオ レンス)ー	立命館大学産業社会学部非常勤講師 松島京
		(第4回) 11月17日(木)	「性と生を考える」 ー産婦人科医師から大学生へのメッセージー	河野産婦人科医院院長 河野美代子
		(第5回) 11月25日(金) 11月26日(土)	「ゲイ・バイセクシュアル・レズビアン」 ーセクシュアリティの多様性を理解しようー	広島大学保健管理センター助手 品川由佳
		(第6回) 12月2日(金) 12月3日(土)	「愛と性の社会心理学」 ー作られた実態と真実の実態ー	広島大学大学院生物圏科学研究科院生 阪井俊文
		(第7回) 12月10日(土)	「性を考えることの意味」 ーセクシュアリティ応用編ー	広島修道大学人文学部教授 河口和也

大学における性教育を考える（第4報）

年度	場 所	月 日	テ ー マ	講 師
2006	広島 東千田 講義室	9月21日（木）	「今だから…今こそ…」 ーあなたたちに今できること 今しなければならぬことー	河野産婦人科医院院長 河野美代子
		(第1回) 10月20日（金） 10月21日（土）	「人間にとってセックスとは何か？」 ー大学での性の講座からー	“人間と性”教育研究協議会幹事、大学講師 村瀬幸浩
	東広島 総合科学部 第一会議室	(第2回) 10月27日（金） 10月28日（土）	「ジェンダーとセックス」 ー男と女の心理の違いv	広島大学大学院生物圏科学研究科院生 阪井俊文
		(第3回) 11月9日（木）	「避妊・中絶・性感染症」 ーあなたは、本当に大丈夫？ー	ウイメンズクリニックかみむら院長 上村茂仁
		(第4回) 11月16日（木）	「男性の性のトラブル」 ー泌尿器科医の性講座ー	おがざき泌尿器科クリニック院長 岡崎敏也
		(第5回) 11月24日（金） 11月25日（土）	「学生相談から見た恋愛トラブル」 ーデートDV、セクハラ、ストーキングのメ カニズムー	広島大学保健管理センター助教授 磯部典子
		(第6回) 12月2日（土） 12月9日（土）	「もっと自分らしく、ノビやかに生きていく ために」 ーセクシュアル・マイノリティであることー	自助グループ運営（広島市） マツウラムコ
		12月9日（土）	Let's 恋愛マスター コミュニケーションスキルアップ講座	立命館大学大学院社会学研究科院生 清水誓子
2007	広島 医学部 広仁会館	4月26日（木）	「性と生を考える」 ー産婦人科医師から大学生へのメッセージー	河野産婦人科医院院長 河野美代子
		(第1回) 00月2日（土）	「虹色の社会をめざして」 ～あなたの側にいる性的マイノリティ～	前大阪府議 尾辻かな子
	東広島 総合科学部 第一会議室	(第2回) 10月26日（金） 10月27日（土）	「甲田中版 WYSH 教育の取り組みをとおし て伝えたい事」 ～AIDS・性感染症について本当のこと知っていますか？～	安芸高田市立美土里小学校養護教諭 栗守章江
		(第3回) 11月1日（木）	Dr. 豊田の「おんなの医学講座」	豊田レディースクリニック院長 豊田紳敬
		(第4回) 11月8日（木）	「どうしてエイズはこんなに増えたのか？」 ～エイズ最新情報～	かとう小児科アレルギー科院長 加藤恭博
		(第5回) 11月16日（金） 11月17日（土）	「ハラスメント相談室から見た恋愛トラブル」 ～あなたも、見直して欲しい～	広島大学ハラスメント相談室教授 横山美栄子
		(第6回) 11月22日（金） 11月23日（土）	「うまいコミュニケーションの取り方」 ～カウンセラーの立場から～	広島大学保健管理センター非常勤講師 林マサ子
		(第7回) 11月30日（金）	「医者がコンドームの達人？」 ～コンドームにこだわる訳？？？～	地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター センター長岩室紳也
2008	東広島 総合科学部 第一会議室	(第1回) 10月17日（金） 10月18日（土）	「若者のジェンダーとセクシュアリティ」 ～自己決定による新しい共生社会のために～	北九州市立大学教授 須藤廣
		(第2回) 10月23日（木）	「妊娠・性感染症について」 ～これぐらいは知っておいて欲しい性のこと～	西条ときわクリニック副院長 山本雅子
		(第3回) 11月7日（金）	「あなたへのメッセージ」 ～生命誕生の素晴らしさ～	出張開業助産師 田中敬子
		(第4回) 11月21日（金） 11月22日（土）	「多様なセクシュアリティ」 ～性的マイノリティについて知ると、セク シュアリティ観が変わる～	(財)エイズ予防財団研究員 砂川秀樹
		(第5回) 11月29日（土）	「セクシュアル・ハラスメント」が社会に投 げかける、恋愛・セクシュアリティへの疑問	広島大学ハラスメント相談室准教授 北仲千里
		(第6回) 12月4日（木）	「恋のメカニズム」	広島大学総合科学研究科教授 町田宗鳳

年度	場 所	月 日	テ ー マ	講 師
2009	東広島 総合科学部 第一会議室	(第1回) 10月16日(金) 10月17日(土)	「性と生と生活と人生と・・・ 何が言いたい！」	広島文教女子大学名誉教授 藤土圭三
		(第2回) 10月23日(金) 10月24日(土)	“人生80年時代の危機管理” セックスが原因のトラブル事例から学ぶ	国立感染症研究所看護師 堀成美
		(第3回) 11月6日(金)	「生命のつながりと性」	岡山大学保健学科教授 中塚幹也
		(第4回) 11月13日(金) 11月14日(土)	変わりゆく社会「生」と「性」	岡山県加茂川中学校教頭 黒瀬敏彦
		(第5回) 11月20日(金) 11月21日(土)	愛という名の支配？ドメステック・バイオ レンスとストーカー	広島大学ハラスメント相談室准教授 北仲千里
		(第6回) 12月5日(土)	文学にみる恋愛と性 ～ロマンチック・ラヴからクティアへ～	広島大学文学研究科教授 有元伸子
2010	東広島 総合科学部 第一会議室	(第1回) 10月7日(木)	「今こそ、君たちに伝えたいこと」	河野産婦人科医院院長 河野美代子
		(第2回) 10月15日(金) 10月16日(土)	『デートDV』から恋愛と性を考える ～ひとりで生きていけないままふたりにな ろうとすると～	一橋・津田塾大学講師 村瀬幸浩
		(第3回) 10月30日(土)	「同性愛と異性愛」	広島修道大学人文学部教授 河口和也
		(第4回) 11月12日(金) 11月13日(土)	「ジェンダーと性暴力」	広島大学ハラスメント相談室准教授 北仲千里
		(第5回) 11月19日(金) 11月20日(土)	「愛と性の教科書」ファッション誌から探る 若者文化としての恋愛	北九州市立大学 阪井俊文
		(第6回) 12月3日(金) 12月4日(土)	表現の枠を広げたい 報道の当事者から見た HIV/エイズ	産経新聞特別記者 宮田一雄
		(第7回) 12月11日(土)	「恋愛と性の講座」 ～何歳になっても性は学ぶべきテーマである～	広島大学保健管理センター看護師 松山まり子

使用することが困難であること、夜間の教室が寒いことなどから2006年度からは同学部の第一会議室を使用した。また、講座とは違う時期に公開講演会を3キャンパス（東広島・広島市霞・広島市東千田）で実施したこともある。

2. 講座のテーマ・講師

講座のテーマは性に関する多様な内容とし、8年間の講座の内容を表2に示した。これは講座の講師としても2回来広いただいた村瀬幸浩氏が、大学の講義に使用されているセクソロジー・ノート⁴⁾のテーマにそってまとめたものである。延べ42名の講師に担当していただいた。講師の内訳は、学内の教員職員11名、非常勤講師6名、学外講師

25名であった。

3. 受講者数

受講者数を図1に、受講者の所属・属性を表3に示す。8年間で延べ1,708名が受講した。内訳は広大生（学部生345、院生121）と最多で、次いで一般、広大職員の他、小中高保健室職員、医療職、他大学学生、保健所・行政（区市町村職員）の受講が毎年あった。2006年度が受講延べ数が最多であった。この年は広大生の受講が特に多かった。その理由として、初回到広大生に知名度の高い講師を招聘したこと、協力学生により講座の案内を普段の講義後にして回ったことやチラシに講演内容を盛り込んだ等を実行したことが大きいと考えられる。

表2. 講座のテーマ

テーマ	講座で取り扱った内容
性を学ぶ	ピアカウンセリング、青年期ピアカウンセリングの体験、セックスとは何か、恋のメカニズム、変わりゆく社会（時代の変化をどう見るか）、性の多様性、性と生を考える、人間にとってセックスとは何か。
生殖をめぐる科学と人間関係	妊娠、出産、基礎体温測定について、コンドームの使い方、青年期ピアカウンセリングの体験、中絶、避妊、男性の性のトラブル、コミュニケーションスキル、WYSH教育、望まない妊娠、性の仕組み。
性差・個人差と性行動	セクシュアリティについて、多様なセクシュアリティ、性を考える、ジェンダーとセックス、性的マイノリティであること、虹色の社会、同性愛、異性愛。
様々な性感染症	HIV感染症について、STIについて、コンドームの使い方、青年期ピアカウンセリングの体験、エイズの最新情報、報道の当事者からみたエイズ、検査・治療、WYSH教育、HPVワクチン。
人権と性と社会と	DV、社会心理学、デートDV、セクシュアルハラスメント、ストーカー行為、性暴力、マスコミから探る恋愛。
性愛のゆくえ	ピアカウンセリング、思春期カウンセリングの体験、変わりゆく社会（結婚の過去現在）、セックスレス、多様な共生スタイル。

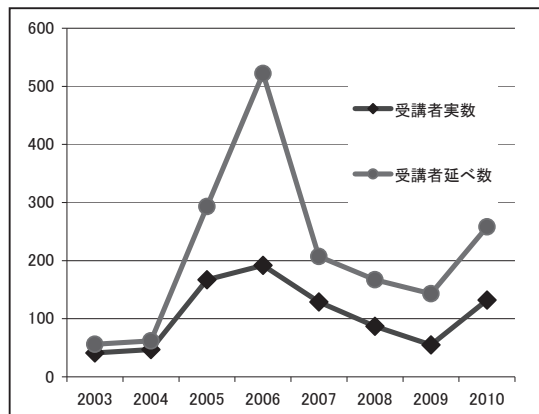


図1. 講座の受講者数

表3. 受講者の内訳

属性		年	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	延べ数
学内	学部生		26	26	69	92	44	35	13	40	345
	院生		8	10	25	28	18	9	7	16	121
	職員		2	2	14	14	14	6	3	14	69
学外	他大学学生		1	4	13	8	9	7	1	4	47
	他大学職員		2	2	13	15	1			7	40
	小中高保健室				14	12	14	6	3	7	56
	医療職		1	2	2	4	3	4	1	2	19
	保健所・行政		1		2	5	8	2	2	9	29
	一般			1	15	14	18	18	25	33	124
合計			41	47	167	192	129	87	55	132	850
公開講座からの受講者数(内数)								6	12	9	27
延べ受講者			56	62	293	522	207	167	143	258	1708

4. 受講者の感想

毎回、受講者にアンケートを実施し、結果を報告してきた^{1)~3)}。2010年度受講学生の感想についてはまだ未集計でありここにその一部を列挙する。

- ・ この講座には2年前から興味があった。僕は将来、結婚したいと考えているので、異性のことを勉強でき考える機会を持つこの時間はとても貴重でした。(21歳, 男性)
- ・ 今まで、あまり性についての話を聞く機会もなく、毎回の講座で様々な話を聞き、色々自分の中で考えを作り直していくことができました。(23歳, 男性)
- ・ 今まで、このような性についての授業を受けたことがなかったので、非常に有意義な時間になりました。異性の事はもちろん、自分の性の事についても、無知であることが知れて良かった。(21歳, 男性)
- ・ 私が教師になった時、子どもたちに何を伝えられるだろう…と考えた時、これじゃいけないと考えなおしました。私がこわいのは、こんなに無知な私たちが大人として子どもの前に立つことです。(23歳, 女性)
- ・ “あの子って、デートDVを受けてるんじゃない”と心配になりました。決して遠い所の話ではなくて、本当に身近な話なんだと痛感しまし

た。私の周りには、別れたくても別れられない人だとか、避妊に応じてくれない人がいるので、どこか「よくあることだ」と軽視しているところがあったように思います。こんなに、重い重いことだったのだ！と実感しました。私のこれからの人生も大きく変わると思いました！！！！(23歳, 女性)

- ・ 自分の恋愛観, sex 観, 人生観にとって、非常に良いお話をお聞きすることができました。自分の人生とともに、相手との関係作りをもっと考えていきたいと思っています。(23歳, 男性)

5. 講座協力学生

この講座の開催に、企画運営側として協力してくれる学生もいた。その学生は全体で11名であり、表4に協力学生の詳細を示す。2008年度末には、このうちNo. 1~7の学生にアンケートを実施した。9問の記述式形式のもので、卒業した者に関しては郵送で回答を得た。その回答の一部を表5に記した。

6. 広島大学公開講座のアンケート

2009年度から講師にもアンケートを求め、その中で「講座のレベル」「講座のねらい」「この講座を振り返っての自己評価」について段階的な評価を求めた。(表6)

表4. 協力学生

NO	性別	学年	年齢	広大生のための性教育講座		恋愛と性の講座							
				学内限定		公開講座		広島大学公開講座					
				平成15 2003	16 2004	17 2005	18 2006	19 2007	20 2008	21 2009	22 2010		
1	男	M1~M2	23~24	1	1								
2	男	D2~D4	28~31			1	1	1					講師
3	女	4年~M2	22~24			1	1	1					
4	女	2~M1	20~23			参加	1	1	1	1			
5	男	2~4年	19~22						1	1	1		
6	女	M1	23~24					1					
7	男	3~4年	20~22						1	1			
8	男	1~2年	19~20							1	1		1
9	女	1年	18~19										1
10	男	M1	23~24		1								
11	女	M2	23~24			1	1						
合計				1	1	2	3	4	3	4	3		

表5. 協力学生へのアンケート結果

質 問	回 答
あなたはこの協力で大切なことを学んだと思いますか？	とても学んだと思う：4名 (理由：1.自分の中であいまいだった「他者への理解」「異性への理解」をする上での、とてもよいきっかけになった。2.性に関する知識を沢山学べたから。)
	ほぼ学んだと思う：3名 (理由：1.協力した後に講演者などの専門家と話ができて、そこから多くの知識を学べた。2.講師の方による考え方の違いを知ることができたなど、ただ受け身的に知識を吸収するというだけではなかったから。様々な立場の方の意見を聞けたことが良かった。3.性に対する見方、自分の見識の誤りを正すことができた。自分のパートナーと、性について話し合うよい機会になった。)
あなたは講座を協力する前と後で、振り返ってみれば、自分は成長したと思えますか？	たくさんある5名
	少しある2名。 (成長したと思った方は、どんな面が成長したと思えますか？) 1.性について多様な見方ができるようになった。2.自分と異なる性について理解が深まり、以前よりも寛容になれた。性に対し、より真摯に考えるようになった。
講座を協力してプラスとなったことは、ありますか？	たくさんある：6名、
	少しはある1名。
講座を協力してマイナスとなったことはありますか？	少しはある：1名 (どんなことがマイナスになりましたか？ 1.参加者が少ない時など、残念な気持ちになった。)
	大いに役立っている3名 (どんな風に役立っていますか？ 1.現在高校に勤務している中で、性教育を考える時や生徒の相談を受ける時など。2.現在仕事で相談業務に携わっていますが、男女間のトラブル、性犯罪被害相談、DV等、性教育講座で学んだことがいきる場面が沢山あります。)
(広島大学を離れた方) 学生時代講座を協力したことが、現在何か役立っていますか？	あまり役立っていない：2名 (どんな風に？ 1.実質的に何か役立っていることはない。)

表6. 公開講座に関する講師アンケート

回答数、2009年度6、2010年度7

講座のレベル	初心者入門レベル	教養教育レベル	学部専門教育レベル	大学院レベル	その他	無回答
	1	11	0	0	0	2
講座のねらい	重要	少し重要	あまり重要ではない	重要ではない	無回答	
知識・教養を深める	7	4	0	0	2	
趣味を豊かにし、生きがいを得る	0	4	3	3	3	
地域問題や社会問題に関する認識を深める	7	3	0	0	3	
職業・実務関連の知識・技能を得る	2	5	2	1	3	
この講座を振り返った時の自己評価	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	
受講者の興味と学習意欲を引き出した	5	6	0	0	2	
分かりやすい説明・解説を行った	3	8	0	0	2	
講座のレベルは適切だった	3	8	0	0	2	
施設や設備・機器類は適切だった	3	7	0	1	2	
講座を担当して満足している	6	2	2	1	2	

Ⅲ. 考 察

1. テーマ・講師について

性教育講座の目的には、当初からネガティブな事態（例：性感染症や、性被害、望まない妊娠等）を回避することがあったため、どの年度もこの関連のテーマは必ず実施してきた。そのため産婦人科医師に毎年講師依頼をし、延べ6名の医師に担当していただいた。中でも広島市で開業されている河野美代子医師には学生の要望（東広島地区以外でも講演会を開催して欲しい）に応じ、広島市の2キャンパスでの講演を実現できた。また、以前から保健管理センターではセクシュアルマイノリティの多様性理解にも取り組んでおり、この講座の重要なテーマの一つとして継続した。そして、2005年度から当事者を招き、自身や他者を尊重する学びとなった。広島では大都会と違いゲイやレズビアンの人との出会いの場が少ないので、講演

後、講師を囲んでの交流会が盛り上がった。講師選び・テーマについては、受講者の希望も取り入れ、学生と時間をかけて話し合った。看護職である私の企画の趣旨と、学生の専門の社会心理学、教育学的立場からの発想とがいつも一致するとは限らず、学生の理解が得にくい場合もあった。

テーマ、講師を振り返るとセクシュアル・ヘルス教育の目的⁵⁾ にならなっていたと考える。つまり学生(受講者)が、ポジティブな結果(例:セルフエスティームを形成すること、自身や他者を尊重すること、互いを思いやる性関係を築くこと、正しい知識や情報を踏まえてリプロダクティブ・ヘルス上の意思決定を行うこと等)を実現し、ネガティブな事態を回避することの、生き方を考える上で参考となったことが、これまでの感想等からいえるであろう。2010年度の感想からも分かるように、どの学生もこれからの生き方にこの講座で学んだことを反映したいという意欲が感じられる。

2. 大学の公開講座の利点

2008年度から広島大学の公開講座となり、県・市教育委員会の後援も可能となった。講演会を大学の公開講座の一つとすることも、講演会実現のひとつの方法と考える。

3. 講座に協力してくれた学生

表3の1~7の学生には、アンケートで回答してもらい、この講座の協力が卒業後も有益であったことが分かった。たとえば、問3「あなたはこの協力で大切なことを学んだと思いますか?」に対して、「とても学んだ」と思う者が4名であり、その内2名は以下のように記述していた。“自分の中であいまいだった「他者への理解」「異性への理解」をする上で、とてもよいきっかけになった。自分ではわからない様々な立場の人の気持ちを見つめることができた。”、“性に対する見方、自分の見識の誤りを正すことができた。自分のパートナーと、性について話し合うよい機会になった。”また、問5「あなたは講座を協力する前と後で、振り返ってみれば、自分は成長したと思えますか?」の質問に対し、5名が「たくさん

ある」と回答した。“性について多様な見方ができるようになった。”“自分と異なる性について理解が深まり、以前よりも寛容になれた。性に対し、より真摯に考えるようになった。”そして、大学を離れ、現在役立っているようである。彼らなりに一生懸命取り組んでくれていたことを改めて、理解し、感謝している。

4. 講師へのアンケート

2009・10年度と公開講座の担当部署エクステンションセンターが、講師にもアンケート調査を実施した。結果は表6に表記した。「恋愛と性の講座」は、教養教育レベルと捉えている割合が高い。大学の授業にする場合は、やはり教養教育扱いと考えられる。「恋愛と性の講座」は、知識・教養を深め、地域問題や社会問題に関する認識を深め、趣味を豊かにし、生きがいを得るのに有効と捉えていただいたようである。また講師自身の自己評価で、「受講者の興味と学習意欲を引き出した」、「分かりやすい説明や解説を行った」、「講座のレベルは適切だった」は高得点を得ていた。「施設や設備・機器類は適切だったか」で、そう思わない人も1名あった。また、講師の先生が「恋愛と性の講座」の講師を担当されて満足しているか尋ねた項目は、「そう思う」が6名、「少しそう思う」2名であった。

5. 講座を振り返る

表2の受講者の内訳で分かるように、2006年は学生の参加が120名であった。以後、減少傾向で、なぜ学生が参加しないのかと学外者までが熱心に考えてくれた。学生にそのことを尋ねると、性に関することは興味関心はあるが、「来にくい」、「きっかけが無い」、「予定が入っている」等言われた。受講を促すには、単位の出る講義形式にすることも必要かもしれない。

講座を8年間担当してきて、性のことを学ぶのは年齢に関係なく生きている限り、学んで欲しいテーマであると確認した。その人がどう生きるかに影響する、大事なテーマであると思う。特に青年期には、人生のパートナーとのはじめての出会い

いがあることも多い。現在はインターネットの利用など情報過多の社会であり、間違っただけの情報も参考にすることによりパートナーも巻き込んだトラブルになる可能性も考えられる。その点からも、可能であるならばパートナーと一緒に一番に学んで欲しいテーマと考える。また、2007年度からハラスメント相談室の協力があり、その縁もあり、2011年度からハラスメント相談室に引き継がれることになった。今後もこの講座が続いていくことを願っている。

IV. まとめ

大学生の性に関しては、ネガティブな事態の身体的な健康課題に関わることばかりが目される傾向がある。「恋愛と性の講座」を企画運営し、当事者自身の抱えている課題、それぞれが向き合っているテーマというものは、非常に幅広く、恋愛関係をはじめとする人間関係の中での他者とのつきあい方、自分自身とのつきあい方など、奥深いことがわかった。大学生にとってセクシュアルヘルスの課題⁶⁾はそれだけが独立しているのではなく、生活、人生一連に関わって登場することなので、性に関連したあらゆるテーマを学んで欲しいと考える。

最後に、この「恋愛と性の講座」に協力いただいたすべての方に感謝いたします。

文献

- 1) 松山まり子, 吉原正治, 岡田真紀, 他: 大学生における性教育を考えるー「広大生のための性教育講座」の実施からー. 総合保健科学, 20, 51-59, 2005.
- 2) 松山まり子, 吉原正治, 内野悌司, 他: 大学生における性教育を考える(第2報)ー「広大生のための性教育講座」の結果からー. 総合保健科学, 21, 77-83, 2005
- 3) 松山まり子, 阪井俊文, 品川由佳, 他: 大学生における性教育を考える(第3報)ー「恋愛と性の講座」の結果報告ー. 総合保健科学, 22, 99-107, 2006
- 4) 村瀬幸浩, CONTENTS.SEXOLOGY NOTE (セクソロジー・ノート) 4-9, 2005
- 5) 増山隆太, 石川哲也, 川畑哲郎, 他: カナダ連邦政府のセクシュアル・ヘルス教育とカナダ学校における性教育の現状. 日本学校保健学会, 53-1, 31-40, 2011.
- 6) 清水誓子, 松島京, 松田亮三: セクシュアル・ヘルス・プロモーションの課題とピアによる支援の可能性ー大学生を対象としたグループ・インタビュー調査からー. 立命館大学セクシュアル・ヘルス・プロモーション研究会, 21-45, 2006